

会津坂下町におけるコミュニティスポーツ政策に関する研究（その2）

新谷 崇 一

目 次

- I はじめに
- II 会津坂下町の概況
- III 会津坂下町居住者の余暇とスポーツ活動（以上その1）
- IV 会津坂下町居住者のスポーツ意識（以上本号）
- V 会津坂下町におけるコミュニティスポーツ政策
- VI まとめ（以上その3）

間は表IV-1の通り「全くしていない」者、「1～30分」の者、「30分～2時間」（1週間に1回ほどまとまった運動をしていると考えられる者）の者、「2時間以上」（クラブ所属者、あるいは1週間に1～2回ほどまとまった運動をしていると考えられる者）の者と四つのグループに分けて考察を行う。また、年齢層は18～29歳（若年層）、30～39歳（若年層）、40～49歳（中年層）、50～59歳（高年層）、60～74歳（高年層）と五つのグループに分けて考察を行う。¹⁾

1. 1週間のスポーツ活動時間からみた会津坂下町居住者とスポーツの関わり

IV 会津坂下町居住者のスポーツ意識

本号においては、1. 1週間のスポーツ活動時間からみた会津坂下町居住者とスポーツの関わり、2. 会津坂下町居住者のスポーツ意識の2節に分けて考察を行う。

1では、会津坂下町居住者の過去から現在に至るまでの日常生活におけるスポーツとの関わりを1週間のスポーツ活動時間別からのクロス集計とそのカイ自乗検定の結果から考察を加え、2では、それらを踏まえた上で「スポーツ行事及びスポーツ教室」、「スポーツ集団」、「スポーツ施設」、「スポーツ指導者」、「スポーツの将来性」に対する意識を男女別、年齢層別、スポーツクラブへの所属及び非所属別、1週間のスポーツ活動時間別からのクロス集計とそのカイ自乗検定の結果から考察を行う。

尚、1週間のスポーツ活動時

表IV-1 1週間のスポーツ活動時間別グループ

性別	活動時間	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明
		人	%	人	%	人	%	人	%	
男	全くしていない	92	34.6	49	18.4	56	21.1	64	24.1	5
	1～30分									1.9
女	全くしていない	118	40.0	59	20.0	65	22.0	37	12.5	16
	1～30分									5.4

表IV-2 職業別スポーツ活動時間

職業	性別	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公務員	男	8	8.7	5	10.2	11	19.6	12	18.8	0	0	36	13.5
	女	3	2.5	0	0	2	3.1	5	13.5	0	0	10	3.4
会社員	男	10	10.9	13	26.5	9	16.1	17	26.7	0	0	49	18.4
	女	21	17.8	11	18.6	16	24.6	5	13.5	1	6.3	54	18.3
卸・小売業	男	5	5.4	3	6.1	7	12.5	11	17.2	2	40.0	28	10.5
	女	6	5.1	3	5.1	4	6.2	2	5.4	0	0	15	5.1
建設業	男	12	13.0	5	10.2	4	7.1	4	6.3	2	40.0	27	10.2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運輸通信業	男	0	0	1	2.0	1	1.8	1	1.6	0	0	3	1.1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	男	0	0	1	2.0	3	5.4	1	1.6	1	20.0	6	2.3
	女	4	3.4	3	5.1	4	6.2	0	0	1	6.3	12	4.1
農林業(専業)	男	24	26.1	6	12.2	6	10.7	9	14.1	0	0	45	16.9
	女	25	21.2	7	11.9	3	4.6	4	10.8	3	18.8	42	14.2
農林業(兼業)	男	21	22.8	7	14.3	7	12.5	4	6.3	0	0	39	14.7
	女	14	11.9	9	15.3	6	9.2	1	2.7	2	12.5	32	10.8
専業主婦(家事労働)	男	1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4
	女	30	25.4	15	25.4	17	26.2	10	27.0	7	43.8	79	26.8
パートタイマー	男	0	0	1	2.0	0	0	0	0	0	0	1	0.4
	女	4	3.4	3	5.1	2	3.1	2	5.4	0	0	11	3.7
その他	男	10	10.9	7	14.3	8	14.3	5	7.8	0	0	30	11.3
	女	7	5.9	4	6.8	9	13.8	7	18.9	0	0	28	9.5
無記不明	男	1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4
	女	4	3.4	4	6.8	2	3.1	1	2.7	1	6.3	12	4.1

① 会津坂下町居住者の職業別スポーツ活動時間

先行研究である「蓬萊地区居住者のスポーツ実態調査」と比較した場合、1週間のスポーツ活動時間は全体的に会津坂下町が少なく、²⁾「全くしていない」男子は34.6%、女子は40.0%、「1～30分」の男子は18.4%、女子は20.0%である。これに対して蓬萊地区では「0～30分」の男子は33.2%、女子は55.2%であり、蓬萊地区に照らし合わせてみた場合、会津坂下町では男子53.0%、女子60.0%となり、特に男子のスポーツ活動時間の少なさが伺える。

また、この1週間のスポーツ活動時間を職業別に示したものが表IV-2である。これによると、「全くしていない」男子では農林業(専業)26.1%、農林業(兼業)22.8%と第一次産業従事者に多く、女子では専業主婦(家事労働)25.4%、農林業(専業)21.2%、会社員17.8%の順となり、個人で生活時間をある程度裁量できる主婦とか、第一次産業従事者に多いことが伺える。³⁾

逆に、1週間のスポーツ活動時間が「2時間以上」の者は、男子の場合、会社員26.7%、公務員18.8%、卸・小売業17.2%と第二次、第三次産業従事者が多く、女子の場合は専業主婦(家事労働)27.0%、公務員、会社員がそれぞれ13.5%となっている。

一般的に、会津坂下町居住者の1週間のスポーツ活動時間は、男女とも第一次産業従事者に活動量が少なく、第二次、第三次産業従事者に活動量が多いことより、今後、年間計画など長期にわたるスポーツ指導計画が必要であるといえる。しかし、対象者が多いとはいえ専業主婦(家事労働)の立場が非常に曖昧であり、「全くしていない」者から、「2時間以上」の者まで平均して多く、今後、詳細なデータによる分析が必要とされるところである。

② 会津坂下町居住者のスポーツクラブへの所属経験の有無

1週間のスポーツ活動時間から「過去(学校時代)におけるスポーツクラブへの所属経験の有無」をみると表IV-3の通りである。これによると「全くしていない」者の中では男女ともスポーツクラブへの所属経験の無い者が過半数を越えるが、1週間のうち多少なりともスポーツ活動時間を有する者においては男女とも過去、スポーツクラブへの所属経験者が大部分を占める傾向(男子 $\chi^2=41.133$, $df=15$, $P=.000$, 女子 $\chi^2=34.251$, $df=15$, $P=.003$)にある。

しかし、過去においてスポーツクラブへの所属経験者でも、現在「全くしていない」、「1～30分」の者はそれぞれ25.2%、20.8%となり、両者で約半数にも及び、また所属経験の無い者においてはそれぞれ48.5%、16.2%となり、両者で約65%にも達し、日常生活における運動量の少なさを示している。同様に、女子の所属経験者で「全くしていない」、「1～30分」の者はそれぞれ31.5%、20.6%となり、両者で半数以上にも及び、所属経験の無い者においてはそれぞれ52.0%、20.3%となり、両者で70%以上を占め、男子同様日常生活における運動量の少なさを示している。

つまり、過去におけるスポーツクラブへの所属経験の有無と1週間のスポーツ活動時間との間には、所属経験者ほど現在のスポーツ活動時間は多いといえるが、所属経験の有無にかかわらず「全くしていない」、「1～30分」の割合は非常に高く、日常生活における運動不足が伺える。

③ 会津坂下町居住者の現在の健康状態

このような1週間のスポーツ活動時間において、住民の健康状態はどうであろうか。「現在の健康状態」についての回答は表IV-4の通りであるが、男女ともスポーツ活動時間が増加するにつれ「良好」の者が多くなり、逆に「全くしていない」者ほど「やや不調」となる傾向を示している。全体的に会津坂下町において特に健康状態の悪い者は見当たらず、大部分の者が(それぞれのスポーツ活動時間においても)「普通」とであると自覚している。

表IV-3 スポーツ活動時間別、スポーツクラブ所属経験の有無

所属の有無	性別	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
あ	男	40	43.5	33	67.3	33	58.9	52	81.3	1	20.0	159	59.8
	女	52	44.1	34	57.6	50	76.9	24	64.9	5	31.3	165	55.9
な	男	48	52.2	16	32.7	21	37.5	10	15.6	4	80.0	99	37.2
	女	64	54.2	25	42.4	14	21.5	12	32.4	8	50.0	123	41.7
無記不明	男	4	1.5	0	0	2	3.6	1	1.6	0	0	8	3.0
	女	2	1.7	0	0	1	1.5	1	2.7	3	18.8	7	2.4

しかし、健康状態を問う場合、単にスポーツ活動時間からの判断では問題があり、会津坂下町の社会的、地理的条件等から詳細に分析しなければ真の健康状態は把握できないであろうが、スポーツ活動を通して概観する限りにおいては普通の健康状態にあるといえる。

表IV-4 スポーツ活動時間別、健康状態

健康状態	性別	運動量		全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
良	好	男	16	17.4	7	14.3	16	28.6	21	32.8	1	20.0	61	22.9	
	女	14	11.9	15	25.4	18	27.7	10	27.0	5	31.3	62	21.0		
普	通	男	56	60.9	31	63.3	28	50.0	34	53.1	2	40.0	151	56.8	
	女	80	67.8	32	54.2	38	58.5	24	64.9	8	50.0	182	61.7		
やや不調	男	18	19.6	9	18.4	11	19.6	9	14.1	2	40.0	49	18.4		
	女	20	16.9	12	20.3	8	12.3	3	8.1	2	12.5	45	15.3		
悪	い	男	2	2.2	2	4.1	0	0	0	0	0	0	4	1.5	
	女	2	1.7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.7		
無記不明	男	0	0	0	0	1	1.8	0	0	0	0	1	0.4		
	女	2	1.7	0	0	1	1.5	0	0	1	6.3	4	1.4		

表IV-5 スポーツ活動時間別、スポーツの習慣

スポーツ習慣	性別	運動量		全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
は	い	男	71	77.2	45	91.8	45	80.4	37	57.8	4	80.0	202	75.9	
	女	96	81.4	52	88.1	51	78.5	24	64.9	9	56.3	232	78.6		
いいえ	男	15	16.3	4	8.2	11	19.6	27	42.2	1	20.0	58	21.8		
	女	20	16.9	5	8.5	14	21.5	13	35.1	5	31.3	57	19.3		
無記不明	男	6	6.5	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2.3		
	女	2	1.7	2	3.4	0	0	0	0	2	12.5	6	2.0		

④ 会津坂下町居住者のスポーツの習慣化

健康状態と関連して、スポーツをする習慣についてみると表IV-5の通りである。これによると男女とも「1～30分」と運動量の少ない者においてスポーツをする習慣の足りなさを自覚し、活動量が多くなるにつれてその足りなさも減少する。特に、男子はその傾向が顕著である。 $(\chi^2=30.903, df=15, P=.009)$

一般的に、多少なりとも活動する「1～30分」の者と「全くしない」者との間では、「全くしていない」者の方がスポーツをする習慣の不足を強く自覚するであろうが、表IV-5をみてもわかる通り逆の現象が現われている。つまり、「全くしていない」者の中にはスポーツ無関心層⁴⁾といわれる者が含まれているものと考えられ、今後、その対応には単にスポーツ活動がゼロという表面的な判断からのものではなく、スポーツ意識という内面的な面からのスポーツの習慣化、及びスポーツ活動への動機づけが必要とされる。

⑤ 会津坂下町居住者のスポーツクラブへの所属問題

第一次産業従事者と第二次、第三次産業従事者との間には明らかなスポーツ活動時間の差をみることができ、また過去、スポーツクラブへの所属経験者ほど、多くスポーツ活動を行い、所属経験の無い者ほどスポーツ活動が少ないという実態にあって、スポーツを定期的実施する方法として、スポーツクラブへの所属の問題が浮び上がってくる。

会津坂下町で、現在スポーツクラブへ所属している者は男子26.3%、女子16.9%であり、この割

合は蓬萊地区と比較して男子は下回るが、女子は幾分多い。⁵⁾しかし、裏返しにスポーツクラブへの非所属者は男子69.2%、女子78.0%にも及び、定期的にしかもまとまったスポーツ活動を行う者は非常に少ないことが伺える。

それでは、なぜスポーツクラブへ所属しないのか、また所属するとしたらどのようなクラブを希望するのか探してみたい。表IV-6はスポーツクラブに所属していない者は「ふだんどのような方法(かたち)でスポーツを行っているか」を示したものである。これによると、全体的に「職場や地域のスポーツ行事(大会)のとき」参加しているが男子22.6%で第1位、女子19.0%で第3位、「子供の遊び相手をして体を動かしている」が男子11.3%で第3位、女子24.1%で第1位、「ラジオ体操、腹筋、腕立てなど家で手軽にできるものをして」が男子13.5%、女子20.7%でそれぞれ第2位である。つまり、男子はスポーツ行事(大会)に合わせたスポーツ活動が主であるが、ふだんは家庭での軽いスポーツ活動であり、女子は子供の相手とか、自分で手軽にできるスポーツ活動が主であるといえる。

これを、1週間のスポーツ活動時間別からみた場合、特に顕著な傾向はみられないが一般的に男女とも「1～30分」の活動量の者が様々な活動方法において高い割合を示しているが、ともに定期的でしかも汗をかくようなスポーツ活動ではないことが伺える。

表Ⅳ-6 スポーツ活動時間別、スポーツ活動の方法

方法	運動量 人・%	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
職場や地域のスポーツ行事(大会)のとき参加している	男	21	22.8	12	24.5	11	19.6	15	23.4	1	20.0	60	22.6
	女	21	17.8	15	25.4	14	21.5	4	10.8	2	12.5	56	19.0
昼休みなどを利用して体を動かしている	男	5	5.4	5	10.2	4	7.1	6	9.4	0	0	20	7.5
	女	9	7.6	3	5.1	4	6.2	3	8.1	1	6.3	20	6.8
定期的にマラソンやジョギングなどを行っている	男	1	1.1	2	4.1	2	3.6	4	6.3	0	0	9	3.4
	女	0	0	1	1.7	1	1.5	1	2.7	0	0	3	1.0
子供の遊び相手をして体を動かしている	男	13	14.1	7	14.3	9	16.1	10	15.6	1	20.0	40	15.0
	女	28	23.7	18	30.5	16	24.6	6	16.2	3	18.8	71	24.1
サイクリング、散歩などによる気晴らしなどをもってスポーツ活動としている	男	7	7.6	5	10.2	10	17.9	8	12.5	0	0	30	11.3
	女	8	6.8	9	15.3	5	7.7	3	8.1	1	6.3	26	8.8
ラジオ体操、腹筋、腕立てなど家で手軽にできるものを行っている	男	5	5.4	17	34.7	8	14.3	6	9.4	0	0	36	13.5
	女	27	22.9	13	22.0	15	23.1	5	13.5	1	6.3	61	20.7
友人や家族などと、年に何回か海水浴とかスキーなどを行っている(シーズン制)	男	5	5.4	3	6.1	2	3.6	3	4.7	0	0	13	4.9
	女	4	3.4	5	8.5	6	9.2	1	2.7	0	0	16	5.4
その他	男	8	8.7	3	6.1	1	1.8	1	1.6	0	0	13	4.9
	女	11	9.3	3	5.1	2	3.1	3	8.1	1	6.3	20	6.8
無記不明	男	38	41.3	13	26.5	24	42.9	32	50.0	3	60.0	110	41.4
	女	31	26.3	12	20.3	23	35.4	19	51.4	9	56.3	94	31.9

表Ⅳ-7 スポーツ活動時間別、スポーツクラブへ所属しない理由

理由	運動量 人・%	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自分の好きな種目がないから	男	4	4.3	3	6.1	2	3.6	5	7.8	0	0	14	5.3
	女	2	1.7	2	3.4	3	4.6	0	0	1	6.3	8	2.7
入ろうとしているクラブのレベルが高くてついていけないから	男	1	1.1	2	4.1	0	0	1	1.6	0	0	4	1.5
	女	5	4.2	1	1.7	4	6.2	2	5.4	0	0	12	4.1
練習の時間帯が合わないから	男	13	14.1	10	20.4	10	17.9	14	21.9	0	0	47	17.7
	女	7	5.9	12	20.3	10	15.4	4	10.8	1	6.3	34	11.5
スポーツを行う時間的余裕がないから	男	39	42.4	12	24.5	10	17.9	6	9.4	1	20.0	68	25.6
	女	33	28.0	15	25.4	12	18.5	5	13.5	1	6.3	66	22.4
スポーツを行う金銭的余裕がないから	男	1	1.1	1	2.0	2	3.6	0	0	0	0	4	1.5
	女	3	2.5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1.0
子供が小さくて手を離されないから	男	2	2.2	0	0	0	0	3	4.7	0	0	5	1.9
	女	9	7.6	5	8.5	6	9.2	5	13.5	1	6.3	26	8.8
家庭の理解がないから	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	3.4	3	5.1	0	0	0	0	0	0	7	2.4
家事労働が忙がしいから	男	16	17.4	6	12.2	8	14.3	3	4.7	0	0	33	12.4
	女	38	32.2	17	28.8	11	16.9	2	5.4	3	18.8	71	24.1
現在、健康を害しているから	男	4	4.3	7	14.3	0	0	3	4.7	0	0	14	5.3
	女	9	7.6	4	6.8	4	6.2	0	0	1	6.3	18	6.1
スポーツはあまり好きでないから	男	15	16.3	5	10.2	3	5.4	0	0	0	0	23	8.6
	女	25	21.2	10	16.9	6	9.2	5	13.5	1	6.3	47	15.9
その他	男	7	7.6	6	12.2	4	7.1	5	7.8	1	20.0	23	8.6
	女	8	6.8	4	6.8	1	1.5	2	5.4	0	0	15	5.1
無記不明	男	18	19.6	12	24.5	26	46.4	32	50.0	3	60.0	91	34.2
	女	19	16.1	11	18.6	23	35.4	19	51.4	9	56.3	81	27.5

表Ⅳ-8 スポーツ活動時間別、希望クラブの種類

クラブの種類	運動量 人・%	全くしていない		1～30分		30分～2時間		2時間以上		無記不明		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自分の好きな種目で好きな時にできる(強制的でない)スポーツクラブ	男	29	31.5	16	32.7	6	10.7	11	17.2	0	0	62	23.3
	女	22	18.6	10	16.9	10	15.4	7	18.9	3	18.8	52	17.6
チーム仲間との交流を目的としたレクリエーション的なスポーツクラブ	男	9	9.8	7	14.3	8	14.3	8	12.5	0	0	32	12.0
	女	22	18.6	12	20.3	10	15.4	4	10.8	1	6.3	49	16.6
健康維持を目的としたスポーツクラブ	男	16	17.4	8	16.3	10	17.9	10	15.6	1	20.0	45	16.9
	女	29	24.6	13	22.0	11	16.9	4	10.8	1	6.3	58	19.7
親子で一緒にできるファミリー的なスポーツクラブ	男	8	8.7	3	6.1	7	12.5	1	1.6	1	20.0	20	7.5
	女	12	10.2	9	15.3	6	9.2	3	8.1	1	6.3	31	10.5
定期的な練習をして試合にできるようなスポーツクラブ	男	2	2.2	0	0	0	0	2	3.1	0	0	4	1.5
	女	3	2.5	3	5.1	4	6.2	0	0	0	0	10	3.4
その他	男	2	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.8
	女	3	2.5	0	0	0	0	1	2.7	0	0	4	1.4
無記不明	男	26	28.3	15	30.6	25	44.6	32	50.0	3	60.0	101	38.0
	女	27	22.9	12	20.3	24	36.9	18	48.6	10	62.5	91	30.8

表IV-9 年齢層別、希望クラブの種類

クラブの種類	性別	年齢層		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
		男女		男女		男女		男女		男女		男女		男女	
自分の好きな種目で、好きな時にできる(強制的でない) スポーツクラブ	男	9	26.5	12	22.2	13	23.2	19	30.2	9	15.3	62	23.3		
	女	6	13.0	6	12.5	18	27.3	14	19.7	8	12.5	52	17.6		
チーム仲間との交流を目的としたレクリエーション的なスポーツクラブ	男	4	11.8	8	14.8	7	12.5	6	9.5	7	11.9	32	12.0		
	女	10	21.7	12	25.0	15	22.7	9	12.7	3	4.7	49	16.6		
健康維持を目的としたスポーツクラブ	男	1	2.9	5	9.3	10	17.9	13	20.6	16	27.1	45	16.9		
	女	2	4.3	4	8.3	12	18.2	21	29.6	19	29.7	58	19.7		
親子で一緒にできるファミリー的なスポーツクラブ	男	3	8.8	5	9.3	5	8.9	5	7.9	2	3.4	20	7.5		
	女	8	17.4	8	16.7	6	9.1	5	7.0	4	6.3	31	10.5		
定期的な練習をして試合にできるようにするスポーツクラブ	男	3	8.8	0	0	0	0	0	0	1	1.7	4	1.5		
	女	8	17.4	1	2.1	1	1.5	0	0	0	0	10	3.4		
その他	男	0	0	0	0	0	0	1	1.6	1	1.7	2	0.8		
	女	0	0	0	0	0	0	2	2.8	2	3.1	4	1.4		
無記不明	男	14	41.2	24	44.4	21	37.5	19	30.2	23	39.0	101	38.0		
	女	12	26.1	17	35.4	14	21.2	20	28.2	28	43.8	91	30.8		

それでは、スポーツクラブへ所属しないのはどのような理由によるものであろうか。表IV-7はスポーツクラブへ所属しない理由を示したものであるが、全体的に男子は、「スポーツを行う時間的余裕がないから」25.6%、「練習の時間帯が合わないから」17.7%、「家事労働が忙しいから」12.4%の順となっており、女子は「家事労働が忙しいから」24.1%、「スポーツを行う時間的余裕がないから」22.4%、「スポーツはあまり好きでないから」15.9%の順となっている。

また、1週間のスポーツ活動時間別からみると、「全くしていない」者の男子では「スポーツを行う時間的余裕がないから」、女子では「家事労働が忙しいから」であるのに対して、活動時間が「2時間以上」の男子では「練習の時間帯が合わない」、女子では「スポーツを行う時間的余裕がない」、「子供が小さくて手を離されないから」、「スポーツはあまり好きでないから」となり、ともに時間的余裕の問題がクローズアップされている。女子における「スポーツはあまり好きでない」という者を除いた会津坂下町居住者のスポーツ活動はかなり社会的条件に左右されていることが理解できる。

それでは、もし「将来スポーツクラブに加入するとしたらどのようなスポーツクラブを望みますか」という質問に対しては、表IV-8の通り全体的には「自分の好きな種目で、好きな時にできる(強制的でない)スポーツクラブ」が男子23.3%で第1位、女子17.6%で第2位、「健康維持を目的としたスポーツクラブ」が男子16.9%で第2位、女子19.7%で第1位となり、ともに強制されるこ

となく自分の好きな時間帯にできるものとなっていることが伺える。⁹⁾このことは、1週間のスポーツ活動時間別にみても同様な傾向を示している。

また、これを年齢層別にみると表IV-9の通り、男子では強制的ではないスポーツクラブを希望する者が平均して多いが、年齢が増加するにつれ、健康維持を目的とした者が現われ、女子においては若年層でチーム仲間との交流を目的としたものから定期的な練習をして試合にできるようにするスポーツクラブとその範囲は広いが、年齢が増加するにつれて男子同様健康維持を目的としたスポーツクラブを希望する傾向(女子、 $\chi^2=66.130$, $df=42$, $P=.010$)を示している。

以上、1週間のスポーツ活動時間別から会津坂下町居住者とスポーツの関わりをみてきたが、これらをまとめると以下ようになるであろう。

会津坂下町という社会的、地理的条件から、第一次産業を中心とした町であることより、スポーツ活動は時間的な問題にかなり影響されていることが考えられる。また、住民の半数以上が過去(学校時代)にスポーツクラブの所属経験者でありながらも、それは現在のスポーツ活動に継続されておらず「全くしていない」、「1～30分」の者は男女とも半数にまで及び所属経験の無い者は70%にまで達し、現在のスポーツ活動量の少なさを示している。

また、スポーツ活動を継続させていく方法として、地域あるいは職場のスポーツクラブへ所属して活動する方法と、スポーツ行事へ参加して活動する方法の二通りが考えられるが、会津坂下町居住者の活動タイプは、スポーツクラブへ所属して

活動するというより、職場や地域のスポーツ行事(大会)に参加したり、家庭での軽いスポーツ活動を行うという、いわゆる行事志向型及びファミリースポーツ志向型の活動といえる。

このことにより、会津坂下町におけるスポーツ行政は、スポーツクラブの育成を主眼にするのではなく、いつでも自由に利用できる解放的な施設を設置し、そこに目的別のスポーツコースを設定し、同時に指導員を配置して指導にあたるというエリア・サービスとプログラム・サービスのミックスされたものであるべきと考えられる。

2. 会津坂下町居住者のスポーツ意識

① スポーツ行事及びスポーツ教室について

前節において、会津坂下町居住者のスポーツ活動は主に行事志向型であると述べたが「過去1年間、会津坂下町のスポーツ行事に参加したことがある」住民は全体で男子42.1%、女子30.5%であり、この割合は蓬萊町居住者の参加に比べ僅かであるが上回っている。⁸⁾

このスポーツ行事への参加状況を年齢層別と1週間のスポーツ活動時間別から示したものが表IV-10と表IV-11である。まず、年齢層別にみた場合、スポーツ行事への参加の割合が多い年代は男女とも30代、40代であり、若年層、高年層になるに従って減少してきている傾向(男子 $\chi^2=40.580$, $df=18$, $P=.002$, 女子 $\chi^2=28.842$, $df=18$, $P=.050$)にある。このことから、会津坂下町における諸行事の中心は30代、40代であることが伺えると同時に、スポーツ行事に老若男女を問わず参加できるスポーツ種目の選択を考慮する必要性があると考えられる。

また、これを1週間のスポーツ活動時間別にみると(女子の場合は一般的に参加の割合が低い)「全くしていない」者でスポーツ行事に参加したことがない者は男子69.6%、女子72.9%であり、逆に「2時間以上」の者は65.6%、女子35.1%がスポーツ行事に参加しており、スポーツ活動量の増加にともなってスポーツ行事への参加者数も増加するという傾向(男子 $\chi^2=86.319$, $df=15$, $P=.000$, 女子 $\chi^2=38.142$, $df=15$, $P=.001$)を示している。

次に、「今後、あなたは会津坂下町のスポーツ行事に積極的に参加していきたいですか」という質

問に対して、全体的に男子53.8%、女子46.4%の者が参加したい意志を持っている。⁹⁾

これを年齢層別にみると30代、40代に参加意識が高く、次いで20代の男女となるが、特に女子に積極的な参加意欲がみられるが、高年層になるに従って積極性も失われる傾向(男子 $\chi^2=30.028$, $df=18$, $P=.037$, 女子 $\chi^2=38.122$, $df=18$, $P=.004$)にある。

また、これを1週間のスポーツ活動時間別にみると、「全くしていない」者で積極的に参加していきたい男子は39.1%、女子は33.9%、逆に「2時間以上」の男子は71.9%、女子は62.2%とスポーツ活動時間の相違によって参加意識に顕著な差(男子 $\chi^2=58.592$, $df=15$, $P=.000$, 女子 $\chi^2=33.554$, $df=15$, $P=.004$)が現われている。

以上まとめると、会津坂下町におけるスポーツ行事の中心的年代は30代、40代であり、これに20代の男女の意識の面において参加意欲の強さが伺える。しかし、50代及び60歳以上は意識及び活動の両面において低く、同時に1週間のスポーツ活動時間の少ないのは高年層になるに従って顕著なことも加わり、¹⁰⁾会津坂下町におけるスポーツ行政の大きな対象の1つであるといえる。

次に、「今後、スポーツ教室を開講してほしい」と思っている者は全体で男子65.0%、女子66.8%と男女とも高い割合を示すが、¹¹⁾この場合も高年層になるに従って要求度が低くなる傾向(男子 $\chi^2=23.525$, $df=18$, $P=.171$, 女子 $\chi^2=31.019$, $df=18$, $P=.029$)を示している。また、1週間のスポーツ活動時間別にみても、活動時間が「全くしていない」者から「2時間以上」になるに従って開講要求も高まる傾向(男子 $\chi^2=37.044$, $df=15$, $P=.001$, 女子 $\chi^2=32.837$, $df=15$, $P=.005$)を示している。

以上まとめると、会津坂下町におけるスポーツ行事、スポーツ教室の開講に関しては、まずスポーツ行事については30代、40代が中心となっているが、20代に参加意識が高く、今後スポーツ行事の在り方、具体的には時期、種目、方法の問題を検討してより多くの参加者を得ることが先決問題であり、同時に高年層への呼びかけを強め、意識の高揚に努めなければならない。

また、スポーツ教室に関しては住民の要求しているスポーツ種目を的確に把握して、それらが地域あるいは職場のスポーツ行事への参加、または

表Ⅳ-10 年齢層別、スポーツ行事、スポーツ教室への参加

項目	回答	性別	年齢層		18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
			男女	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人
あなたは、過去1年間会津坂下町のスポーツ行事に参加したことがありますか	あ	男	12	35.3	35	64.8	32	57.1	19	30.2	14	23.7	112	42.1		
		女	17	37.0	19	39.6	30	45.5	13	18.3	11	17.2	90	30.5		
	な	男	21	61.8	19	35.2	23	41.1	39	61.9	33	55.9	135	50.8		
		女	27	58.7	28	58.3	35	53.0	45	63.4	46	71.9	181	61.4		
	無記不明	男	1	2.9	0	0	1	1.8	5	7.9	12	20.3	19	7.1		
		女	2	4.3	1	2.1	1	1.5	13	18.3	7	10.9	24	8.1		
今後、あなたは会津坂下町のスポーツ行事に積極的に参加していきたいですか	は	男	21	61.8	37	68.5	37	66.1	26	41.3	22	37.3	143	53.8		
		女	32	69.6	27	56.3	39	59.1	17	23.9	22	34.4	137	46.4		
	い	男	12	35.3	16	29.6	17	30.4	31	49.2	23	39.0	99	37.2		
		女	11	23.9	19	39.6	25	37.9	39	54.9	34	53.1	128	43.4		
	無記不明	男	1	2.9	1	1.9	2	3.6	6	9.5	14	23.7	24	9.0		
		女	3	6.5	2	4.2	2	3.0	15	21.1	8	12.5	30	10.2		
現在、会津坂下町ではスポーツ教室はあまり開講されていませんが、今後開講してほしいと思いますか	は	男	25	73.5	41	75.9	38	67.9	39	61.9	30	50.8	173	65.0		
		女	37	80.4	39	81.3	50	75.8	36	50.7	35	54.7	197	66.8		
	い	男	7	20.6	12	22.2	13	23.2	17	27.0	11	18.6	60	22.6		
		女	5	10.9	8	16.7	13	19.7	15	21.1	19	29.7	60	20.3		
	無記不明	男	2	5.9	1	1.9	5	8.9	7	11.1	18	30.5	33	12.4		
		女	4	8.7	1	2.1	3	4.5	20	28.2	10	15.6	38	12.9		

表Ⅳ-11 スポーツ活動時間別、スポーツ行事、スポーツ教室への参加

項目	回答	性別	活動時間		全くしていない		1~30分		30分~2時間		2時間以上		無記不明		計	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
			男女	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人
あなたは、過去1年間会津坂下町のスポーツ行事に参加したことがありますか	あ	男	21	22.8	17	34.7	32	57.1	42	65.6	0	0	112	42.1		
		女	23	19.5	23	39.0	29	44.6	13	35.1	2	12.5	90	30.5		
	な	男	64	69.6	29	59.2	21	37.5	21	32.8	0	0	135	50.8		
		女	86	72.9	33	55.9	33	50.8	22	59.5	7	43.8	181	61.4		
	無記不明	男	7	7.6	3	6.1	3	5.4	1	1.6	5	100.0	19	7.1		
		女	9	7.6	3	5.1	3	4.6	2	5.4	7	43.8	24	8.1		
今後、あなたは会津坂下町のスポーツ行事に積極的に参加していきたいですか	は	男	36	39.1	25	51.0	36	64.3	46	71.9	0	0	143	53.8		
		女	40	33.9	36	61.0	34	52.3	23	62.2	4	25.0	137	46.4		
	い	男	46	50.0	20	40.8	16	28.6	17	26.6	0	0	99	37.2		
		女	66	55.9	20	33.9	25	38.5	12	32.4	5	31.3	128	43.4		
	無記不明	男	10	10.9	4	8.2	4	7.1	1	1.6	5	100.0	24	9.0		
		女	12	10.2	3	5.1	6	9.2	2	5.4	7	43.8	30	10.2		
現在、会津坂下町ではスポーツ教室はあまり開講されていませんが、今後開講してほしいと思いますか	は	男	54	58.7	29	59.2	39	69.6	51	79.7	0	0	173	65.0		
		女	72	61.0	46	78.0	46	70.8	29	78.4	4	25.0	197	66.8		
	い	男	25	27.2	15	30.6	10	17.9	10	15.6	0	0	60	22.6		
		女	31	26.3	7	11.9	13	20.0	6	16.2	3	18.8	60	20.3		
	無記不明	男	13	14.1	5	10.2	7	12.5	3	4.7	5	100.0	33	12.4		
		女	15	12.7	6	10.2	6	9.2	2	5.4	9	56.3	38	12.9		

生涯スポーツへというプログラムのレールの上に成り立ったスポーツ教室であることが望まれる。

② スポーツ集団について

集団とは、「人びとの社会関係の複合的な統一体であり、その成員が共通の関心や目的、規範的な行為様式、および集団的意識感情を一般にもっているとともに、集団をそのものの独自の活動性と、成員の部分的な交替にかかわらず持続する可能性をもつものである」と定義し、またその集団が集団として成立するためには、a. ある程度共通な関心の対象、すなわち目標があり、b. ある程度安定した、また持続的な相互作用を示し、c. メンバーの間に統合的な仲間意識がもたれている¹²⁾ことが基本的要件とされる。

従って、会津坂下町におけるスポーツ集団も無作為に形成されるものではなく、地域住民を対象とした「人為的、第二次公式集団」¹³⁾として捕え、そのメンバー構成にも留意する必要がある。

表Ⅳ-12は性、年齢、技術程度、対象域に対して年齢層別に希望するそれぞれのスポーツ集団を示したものであるが、以下順を追ってみたい。¹⁴⁾

まず、性別にみた集団では全体的に男子は「異性混合の集団」を好み(28.6%)、女子は「同性同志の集団」を好む(27.8%)傾向にあるが、¹⁵⁾年齢層別にみると相違がみられる。同性同志の集団を希望するのは男子の高年層(50代)、女子の中年層(40代)であるのに対して、異性混合の集団は男女とも若年層の20代、30代に多い。

次に、年齢層別にみた集団では全体的に男子ではあまり相違はみられないが、女子の場合は「ほぼ同年齢層の集団」を希望する。¹⁶⁾これを年齢層別にみると、ほぼ同年齢層を強く希望するのは男子の50代(36.5%)、女子の40代(51.5%)であり、年齢の様々な集団を希望するのは若年層、特に男子20代(30.4%)、女子30代(38.9%)であり、年齢層間にその相違が現われている。

また、技術程度別にみた集団では全体的に男子は「技術程度の様々な集団」を希望し、(26.3%)、女子は「技術程度のほぼ同じ集団」を希望している(28.5%)。¹⁷⁾しかし、この技術程度による集団も年齢層間に相違が現われ、ほぼ同じレベルを希望するのは男子の50代(36.5%)、女子の40代(51.5%)と中年から高年層に多く、様々なレベルを希望するのは男女とも20代(男子47.1%、女子45.7%)に多いのが特徴的である。

最後に、対象域別にみた集団では全体的に男女とも「地域を中心とした集団」を希望する傾向にあり、¹⁸⁾これは20代(男子55.9%、女子60.9%)に高い割合を示す。

以上から、会津坂下町におけるスポーツ集団の構成で考慮すべき点は、まず男女別にそれぞれの希望集団を構成すべきであろうが、それ以上に年齢層別によるスポーツ集団の構成である。つまり、若年層は「地域を中心とした、異性混合で、年齢が様々でしかも技術程度の様々な集団」を、中、高年層では「地域を中心とした、同性同志で、ほぼ同年齢層でしかも技術程度のほぼ同じ集団」であるといえる。

③ スポーツ施設について

スポーツ施設とはスポーツ活動に必要な物的な場を人工的に整えたものであり、運動の能率や効果を十分に高め、より快適に、安全な運動が行われることを目的としたものである。

また、現代スポーツにおいてはスポーツ技術の高度化が施設の近代化を促し、施設の近代化はさ

表IV-12 年齢層別、希望集団のタイプ

集団の種類	性別	18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
同性同志の集団	男	5	14.7	8	14.8	11	19.6	16	25.4	7	11.9	47	17.7
	女	13	28.3	15	31.3	23	34.8	18	25.4	13	20.3	82	27.8
異性混合の集団	男	16	47.1	21	38.9	15	26.8	13	20.6	11	18.6	76	28.6
	女	19	41.3	16	33.3	19	28.8	7	9.9	8	12.5	69	23.4
無記不明	男	13	38.2	25	46.3	30	53.6	34	54.0	41	69.5	143	53.8
	女	14	30.4	17	35.4	24	36.4	46	64.8	43	67.2	144	48.8
ほぼ同年齢層の集団	男	7	20.6	8	14.8	14	25.0	23	36.5	17	28.8	69	25.9
	女	18	39.1	19	39.6	34	51.5	30	42.3	24	37.5	125	42.4
年齢の様々な集団	男	13	38.2	21	38.9	14	25.0	10	15.9	6	10.2	64	24.1
	女	14	30.4	12	25.0	11	16.7	7	9.9	5	7.8	49	16.6
無記不明	男	14	41.2	25	46.3	28	50.0	30	47.6	36	61.0	133	50.0
	女	14	30.4	17	35.4	21	31.8	34	47.9	35	54.7	121	41.0
技術程度のほぼ同じ集団	男	4	11.8	12	22.2	10	3.8	15	23.6	6	10.2	47	17.7
	女	11	23.9	17	35.4	29	43.9	18	25.4	9	14.1	84	28.5
技術程度の様々な集団	男	16	47.1	17	31.5	16	6.0	13	20.6	8	13.6	70	26.3
	女	21	45.7	14	29.2	12	18.2	4	5.6	7	10.9	58	19.7
無記不明	男	14	41.2	25	46.3	30	11.3	35	55.6	45	76.3	149	56.0
	女	14	30.4	17	35.4	25	37.9	49	69.0	48	75.0	153	51.9
職場を中心とした集団	男	3	8.8	7	13.0	3	5.4	5	7.9	2	3.4	20	7.5
	女	4	8.7	6	12.5	8	12.1	1	1.4	1	1.6	20	6.8
地域を中心とした集団	男	19	55.9	22	40.7	25	44.6	24	38.1	19	32.2	109	41.0
	女	28	60.9	24	50.0	39	59.1	23	32.4	18	28.1	132	44.7
無記不明	男	12	35.3	25	46.3	28	50.0	34	54.0	38	64.4	137	51.5
	女	14	30.4	18	37.5	19	28.8	47	66.2	45	70.3	143	48.5

らに新しい技術の発生へと相互規定関係を成立させ、スポーツの発展はそのまま施設の発展とまでいえるほどになってきている。

このように、スポーツと施設は切り離して考えることのできるものではなく、表裏一体のものとなっている。会津坂下町におけるスポーツ施設には既に老朽化したものもあり、またこれから計画中のものもあると思われるが、住民はスポーツ施設に対してどのような意識を抱いているのかを把握することは、現在のスポーツ施設の活用において、またスポーツ施設の新設において不可欠なものと考えられる。

以下、会津坂下町居住者のスポーツ施設に対する意識を探ってみたい。

表IV-13は、現在職場あるいは地域のスポーツクラブへの所属者と非所属者が「ふだん運動を行う場所」を示したものである。これによると、スポーツクラブ所属者は男女とも主に学校の施設、公営施設(学校を除く)であり、非所属者は男女とも自宅の庭、道路となり使用施設及び所用場所に大きな相違がみられる(男子 $\chi^2=94.173$, $df=24$, $P=.000$, 女子 $\chi^2=149.149$, $df=24$, $P=.000$)。

このように利用施設(場所)に相違がみられるなかであって、現在のスポーツ施設に対する満足度はどのようなものであろうか。表IV-14は「会津坂下町のスポーツ施設は現在で十分だと思いますか」の回答を年齢層別に示したもので、全体的

に男子 77.4%，女子 64.7% の者が不十分であると感している。¹⁹⁾

現在、会津坂下町には小学校、中学校及び高等学校の体育館、グラウンド、プール及び町営体育館、町営スキー場等の施設が存在するが、²⁰⁾ その大きさ、利用時間帯などにおいて必ずしも満足できる現状ではない。年齢層別にみたとき、特に若年層の男女に施設の不十分さを訴えている傾向（男子 $\chi^2=30.825$, $df=18$, $P=.003$, 女子 $\chi^2=37.755$, $df=18$, $P=.004$ ）がみられる。

次に、スポーツ施設の選択においてどのような条件を希望するかを年齢層別、1週間のスポーツ活動時間別に示したものが表IV-15と表IV-16である。

まず、施設の設備面において全体的に男子は「少し遠いが本格的な施設」（41.0%）、女子は「住居の近くにあるが簡素な施設」（43.7%）を希望する傾向にある。²¹⁾ これを年齢層別にみると若年層の男女と中年層の男子において本格的なものを希望する傾向にあり、逆に30代、40代の女子、及び高年層の男女において身近かで簡素なものを希望する傾向（男子 $\chi^2=39.719$, $df=18$, $P=.002$, 女子 $\chi^2=76.033$, $df=18$, $P=.000$ ）にある。このように、スポーツ施設の設備面において、年齢層間に相違をみることができると同時に、30代、40代の女子には育児、家事等による時間的制約の影響から、身近かなスポーツ施設を希望する理由が伺える。

また、これを1週間のスポーツ活動時間別からみると、ここにも顕著な相違がみられ、スポーツ活動時間が多くなるにつれ、特に、「2時間以上」になると男子 56.3%、女子 48.6% が本格的なスポーツ施設を希望する傾向（男子 $\chi^2=23.469$, $df=15$, $P=.075$, 女子 $\chi^2=36.223$, $df=15$, $P=.002$ ）を示している。

次に、費用及びサービス面に関して全体的には「金はかからないがセルフサービスの施設」（男子 63.2%、女子 58.0%）を希望する傾向にある。²²⁾

これを年齢層別にみても男女差はあまりみられないが、若年層ほどその傾向が強く現われている（男子 $\chi^2=37.357$, $df=18$, $P=.005$, 女子 $\chi^2=80.412$, $df=18$, $P=.000$ ）。

また、1週間のスポーツ活

動時間別にみると、各スポーツ活動時間ともセルフサービスの施設を希望する傾向（男子 $\chi^2=20.170$, $df=15$, $P=.165$, 女子 $\chi^2=29.657$, $df=15$, $P=.013$ ）にあるが、「全くしていない」者において無記不明者が男子 44.6%、女子 44.9% にも達し、スポーツ施設に対する意識の低さと同時にスポーツに対する興味の薄さを示しているものと考えられる。

最後に、会員制や手続き面に関してみると全体的に「開放的で手続きなどいらない施設」（男子 70.7%、女子 68.1%）を希望する傾向にある。²³⁾ これを年齢層別にみると、若年層、中年層においては開放的な施設を希望するが、高年層になるに従って他の項目と同様無記不明者が増加し、高年層のスポーツ離れが目立つ。

また、1週間のスポーツ活動時間別からみると、前項目と同様「全くしていない」者において判断の曖昧さがみられるが、他は開放的な施設を希望する傾向にある。

以上より、会津坂下町居住者のスポーツ施設に対する意識において、施設の設備面で男女別、年齢層別、及び一週間のスポーツ活動時間別において相違がみられ、若年層の男女及び中年層の男子は「少し遠いが本格的なスポーツ施設」を、30

代、40代の女子及び高年層の男女は「家の近くにあるが簡素なスポーツ施設」を希望する。また、1週間のスポーツ活動時間が増加するにつれて本格的なスポ

表IV-13 クラブ所属の有無別、利用施設(場)

場所	性別	所属の有無		所属者		非所属者	
		人	%	人	%	人	%
職場の施設	男	5	7.1	11	6.0		
	女	2	4.0	14	6.1		
学校の施設	男	27	38.6	19	10.3		
	女	20	40.0	15	6.5		
公営施設(学校を除く)	男	21	30.0	9	4.9		
	女	20	40.0	8	3.5		
空地、社寺	男	4	5.7	13	7.1		
	女	1	2.0	9	3.9		
道	男	2	2.9	21	11.4		
	女	1	2.0	25	10.9		
自宅の庭	男	6	8.6	50	27.2		
	女	4	8.0	70	30.4		
その他	男	3	4.3	10	5.4		
	女	0	0	8	3.5		
無記不明	男	2	2.9	51	27.7		
	女	2	4.0	81	35.2		

無記不明 男=12、女=14。

表IV-14 年齢層別、スポーツ施設の充足度

回答	性別	年齢層		18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
十分	男	1	2.9	2	3.7	6	10.7	11	17.5	9	15.3	29	10.9		
	女	5	10.9	11	22.9	14	21.2	7	9.9	10	15.6	47	15.9		
不十分	男	31	91.2	49	90.7	48	85.7	44	69.8	34	57.6	206	77.4		
	女	37	80.4	35	72.9	46	69.7	40	56.3	33	51.6	191	64.7		
無記不明	男	2	5.9	3	5.8	2	3.6	8	12.7	16	27.1	31	11.7		
	女	4	8.7	2	4.2	6	9.1	24	33.8	21	32.8	57	19.3		

表IV-15 年齢層別、希望スポーツ施設のタイプ

施設の種別	性別	年齢層					計						
		18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
住居の近くにあるが簡素な施設	男	7	20.6	20	37.0	15	26.8	26	41.3	24	40.7	92	34.6
	女	16	34.8	28	58.3	35	53.0	26	36.6	24	37.5	129	43.7
少し遠いが本格的な施設	男	23	67.6	28	51.9	31	55.4	14	22.2	13	22.0	109	41.0
	女	26	56.5	17	35.4	14	21.2	9	12.7	5	7.8	71	24.1
無記不明	男	4	11.8	6	11.1	10	17.9	23	36.5	22	37.3	65	24.4
	女	4	8.7	3	6.3	17	25.8	36	50.7	35	54.7	95	32.2
金はかかるがサービスのよい施設	男	4	11.8	4	7.4	3	5.4	5	7.9	3	5.1	19	7.1
	女	5	10.9	3	6.3	6	9.1	7	9.9	2	3.1	23	7.8
金のかからないセルフサービスの施設	男	26	76.5	43	79.6	42	75.0	34	54.0	23	39.0	168	63.2
	女	38	82.6	42	87.5	46	69.7	23	32.4	22	34.4	171	58.0
無記不明	男	4	11.8	7	13.0	11	19.6	24	38.1	33	55.9	79	29.7
	女	3	6.5	3	6.3	14	21.2	41	57.7	40	62.5	101	34.2
会員制で豪華な気分を味わえる施設	男	2	5.9	1	1.9	2	3.6	0	0	1	1.7	6	2.3
	女	2	4.3	1	2.1	4	6.1	4	5.6	0	0	11	3.7
開放的で手続きのいらぬ施設	男	27	79.4	46	85.2	44	78.6	43	68.3	28	47.5	188	70.7
	女	41	89.1	43	89.6	50	75.8	32	45.1	35	54.7	201	68.1
無記不明	男	5	14.7	7	13.0	10	17.9	20	31.7	30	50.8	72	27.1
	女	3	6.5	4	8.3	12	18.2	35	49.3	29	45.3	83	28.1

表IV-16 スポーツ活動時間別、希望スポーツ施設のタイプ

施設の種別	性別	活動時間					無記不明		計				
		全くしていない		1~30分		30分~2時間		2時間以上		計			
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
住居の近くにあるが簡素な施設	男	31	33.7	23	46.9	14	25.0	21	32.8	3	60.0	92	34.6
	女	47	39.8	32	54.2	32	49.2	11	29.7	7	43.8	129	43.7
少し遠いが本格的な施設	男	28	30.4	17	34.7	28	50.0	36	56.3	0	0	109	41.0
	女	18	15.3	11	18.6	23	35.4	18	48.6	1	6.3	71	24.1
無記不明	男	33	35.9	9	18.4	14	25.0	7	10.9	2	40.0	65	24.4
	女	53	44.9	16	27.1	10	15.4	8	21.6	8	50.0	95	32.2
金はかかるがサービスのよい施設	男	3	3.3	4	8.2	3	5.4	8	12.5	1	20.0	19	7.1
	女	11	9.3	3	5.1	5	7.7	3	8.1	1	6.3	23	7.8
金のかからないセルフサービスの施設	男	48	52.2	36	73.5	35	62.5	46	71.9	3	60.0	168	63.2
	女	54	45.8	41	69.3	48	73.8	25	67.6	3	18.8	171	58.0
無記不明	男	41	44.6	9	18.4	18	32.1	10	15.6	1	20.0	79	29.7
	女	53	44.9	15	25.4	12	18.5	9	24.3	12	75.0	101	34.2
会員制で豪華な気分を味わえる施設	男	2	2.2	0	0	1	1.8	3	4.7	0	0	6	2.3
	女	4	3.4	2	3.4	2	3.1	3	8.1	0	0	11	3.7
開放的で手続きのいらぬ施設	男	56	60.9	39	79.6	38	67.9	52	81.3	3	60.0	188	70.7
	女	64	54.2	47	79.7	52	80.0	28	75.7	10	62.5	201	68.1
無記不明	男	34	37.0	10	20.4	17	30.4	9	14.1	2	40.0	72	27.1
	女	50	42.4	10	16.9	11	16.9	6	16.2	6	37.5	83	28.1

スポーツ施設を希望する傾向にある。

その他の条件では、全体的に「金はかからずセルフサービスで手続きのいらぬスポーツ施設」を要求する傾向にあるといえる。

④ スポーツ指導者について

高度経済成長は、国民に時間と経済のゆとりをもたらした。その結果国民の生活に体育・スポーツが普及し、自然的・自主的なスポーツ団体の発生をも起こし、それとともにスポーツ指導者の社会的需要も高まってきた。しかし、このスポーツ指導員の身分は社会的に保障されておらず、市町村教育委員会の非常勤講師として位置づけられている「体育指導員」とか、地域における教員の支援というように奉仕的な指導にとどまっているのが

現状である。

しかし、このスポーツ指導者の役割は、単に運動技術の指導にとまるものではなく、仲間づくりや施設の用具のサービスをも含み、地域におけるコミュニケーションの仲介人としての役割をも課せられている。

このように重要な任務にあるスポーツ指導員に対して、会津坂下町居住者はどのような意識を抱いているのであろうか。表IV-17は「スポーツを行うとき、スポーツ指導者は必要か」という質問に対して年齢層別の回答を示したものである。これによると、全体的に男子は77.8%、女子は78.6%の者がスポーツ指導者の必要性を感じていることが理解できる。

表IV-18と表IV-19は、年齢層別及びクラブ所属者、非所属者別による希望する指導者のタイプを示したものである。

まず、礼儀に対する指導者のタイプとして全体的に男子は「礼儀正しい指導者」

37.2%、女子は「ざつぱらんな指導者」45.1%を希望する傾向にあり、男女差がみられる。²⁴⁾これを年齢層別にみると、男子は30代、40代に礼儀を重んじる指導者を希望するが、20代ではざつぱらんな指導者を希望する者が58.8%にも及び、年齢層間による相違が明確である($\chi^2=27.917$, $df=18$, $P=.063$)。また、女子の場合も若年層ほどざつぱらんな指導者を希望する傾向($\chi^2=61.378$, $df=18$, $P=.000$)にあり、年齢層間に相違が現われている。

これを、スポーツクラブへの所属の有無からみると、男子における所属者は礼儀正しい指導者を、非所属者はざつぱらんな指導者を希望するが、女子では一貫して両者ともざつぱらんな指導者を希望する傾向にある。

表Ⅳ-17 年齢層別、スポーツ指導者の必要性

必要性	性別	18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
必要	男	28	82.4	45	83.3	45	80.4	45	71.4	44	74.6	207	77.8
	女	33	71.7	46	95.8	62	93.9	49	69.0	42	65.6	232	78.6
不必要	男	4	11.8	6	11.1	9	16.1	12	19.0	4	6.8	35	13.2
	女	11	23.9	2	4.2	3	4.5	4	5.6	8	12.5	28	9.5
無記不明	男	2	5.9	3	5.6	2	3.6	6	9.5	11	18.6	24	9.0
	女	2	4.3	0	0	1	1.5	18	25.4	14	21.9	35	11.9

表Ⅳ-18 年齢層別、希望指導者のタイプ

指導者のタイプ	性別	18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
礼儀正しい指導者	男	9	26.5	24	44.4	27	48.2	21	33.3	18	30.5	99	37.2
	女	14	30.4	12	25.0	24	36.4	12	16.9	7	10.9	69	23.4
ざっくばらんな指導者	男	20	58.8	22	40.7	17	30.4	17	27.0	15	25.4	91	34.2
	女	29	63.0	30	62.5	30	45.5	22	31.0	22	34.4	133	45.1
無記不明	男	5	14.7	8	14.8	12	21.4	25	39.7	26	44.1	76	28.6
	女	3	6.5	6	12.5	12	18.2	37	52.1	35	54.7	93	31.5
安全をモットーとした指導者	男	15	44.1	28	51.9	33	58.9	31	49.2	28	47.5	135	50.8
	女	31	67.4	28	58.3	47	71.2	29	40.8	25	39.1	160	54.2
進歩をモットーとした指導者	男	14	41.2	17	31.5	11	19.6	10	15.9	3	5.1	55	20.7
	女	12	26.1	13	27.1	9	13.6	2	2.8	4	6.3	40	13.6
無記不明	男	5	14.7	9	16.7	12	21.4	22	34.9	28	47.5	76	28.6
	女	3	6.5	7	14.6	10	15.2	40	56.3	35	54.7	95	32.2
元気のよい若い指導者	男	16	47.1	20	37.0	13	23.2	5	7.9	6	10.2	60	22.6
	女	29	63.0	26	54.2	34	51.5	11	15.5	7	10.9	107	36.3
経験をつんだ老練な指導者	男	14	41.2	24	44.4	32	57.1	33	52.4	24	40.7	127	47.7
	女	14	30.4	14	29.2	18	27.3	23	32.4	25	39.1	94	31.9
無記不明	男	4	11.8	10	18.5	11	19.7	25	39.7	29	49.2	79	29.7
	女	3	6.5	8	16.7	14	21.2	37	52.1	32	50.0	94	31.9

表Ⅳ-19 クラブ所属の有無別、希望指導者のタイプ

指導者のタイプ	性別	所属者		非所属者	
		人	%	人	%
礼儀正しい指導者	男	34	48.6	62	33.7
	女	15	30.0	50	21.7
ざっくばらんな指導者	男	20	28.6	70	38.0
	女	23	46.0	106	46.1
無記不明	男	16	22.9	52	28.3
	女	12	24.0	74	32.2
安全をモットーとした指導者	男	30	42.9	101	54.9
	女	21	42.0	133	57.8
進歩をモットーとした指導者	男	22	31.4	33	17.9
	女	16	32.0	24	10.4
無記不明	男	18	25.7	50	27.2
	女	13	26.0	73	31.7
元気のよい若い指導者	男	18	25.7	42	22.8
	女	19	38.0	83	36.1
経験をつんだ老練な指導者	男	37	52.9	87	47.3
	女	18	36.0	71	30.9
無記不明	男	15	21.4	54	29.3
	女	13	26.0	76	33.0

年齢層別では、40代の男女にその傾向が顕著である（男子 $\chi^2=31.635$, $df=18$, $P=.024$, 女子 $\chi^2=70.351$, $df=18$, $P=.000$ ）。しかし、20代の男子では41.2%の者が「進歩をモットーとした指導者」を希望し、スポーツ活動に対する積極性が伺える。

また、スポーツクラブへの所属の有無からみた

場合、一般的に非所属者に安全をモットーとした指導者を希望する傾向が強いが、両者とも年齢層別にみた場合と同様な傾向が現われている。

最後に、年齢及び熟練度からみた指導者のタイプに対して、全体的に男子は「経験をつんだ老練な指導者」47.7%を、女子は「元気のよい若い指導者」36.3%を希望する傾向にあり、²⁶⁾ 男女差が現われている。年齢層別では、20代の男子で若い指導者を希望するが、30代以降では老練な指導者を希望する傾向（ $\chi^2=45.813$, $df=18$, $P=.000$ ）にあり、女子は男子と対比的に若年層から中年層にかけて若い指導者を希望する傾向（ $\chi^2=69.797$, $df=18$, $P=.000$ ）を示し、男女間に明確な相違をみる事ができる。

次に、技術向上に関する指導者のタイプとして、全体的に男女とも「安全をモットーとした指導者」（男子50.8%、女子54.2%）を希望する傾向にあり、²⁵⁾ 年齢

このような男女差の傾向は、スポーツクラブへの所属の有無からみた場合にもみられ、特に所属者の男子は老練な指導者を、女子は若い指導者を希望する傾向が強い。

以上から、会津坂下町居住者の希望するスポーツ指導者のタイプをまとめると、礼儀と年齢及び熟練度の面に男女差が現われ、また年齢間にも明確な相違がみられた。つまり、男女とも「安全をモットーとする指導者」を希望しながらも、男子は「礼儀正しく、経験をつんだ老練な指導者」を、女子は「ざっくばらんで、元気がよく若い指導者」を希望する傾向にある。

また、年齢層間では20代の男女及び30代、40代の女子は「安全をモットーとし、ざっくばらんで元気がよい若い指導者」を、30代、40代、50代の男子は、「安全をモットーとし、礼儀正しく、経験をつんだ老練な指導者」を希望する傾向にあるといえる。

⑤ スポーツの将来性について

昭和55年度の労働時間制度調査結果（概要）によれば、なんらかの形で週休2日制を実施してい

表IV-20 年齢層別、スポーツの将来性①

項目	性別	回答	男女	年齢層 人%	18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
○10年後には人々の余暇は益々少なくなると思いますか	全	は	い	男	21	61.8	37	68.5	38	67.9	38	60.3	24	40.7	158	59.4
				女	27	58.7	30	62.5	37	56.1	25	35.2	20	31.3	139	47.1
		い	い	男	7	20.6	6	11.1	8	14.3	8	12.7	6	10.2	35	13.2
				女	6	13.0	7	14.6	9	13.6	6	8.5	9	14.1	37	12.5
		わからない	い	男	4	11.8	9	16.7	8	14.3	10	15.9	13	22.0	44	16.5
				女	11	23.9	11	22.9	13	19.7	26	36.6	22	34.4	83	28.1
	無記不明	不明	男	2	5.9	2	3.7	2	3.6	7	11.1	16	27.1	29	10.9	
			女	2	4.3	0	0	7	10.6	14	19.7	13	20.3	36	12.2	
	会津坂下町	は	い	男	18	52.9	31	57.4	33	58.9	34	54.0	25	42.4	141	53.0
				女	21	45.7	25	52.1	36	54.5	27	38.0	26	40.6	135	45.8
		い	い	男	9	26.5	12	22.2	12	21.4	14	22.2	10	16.9	57	21.4
				女	10	21.7	11	22.9	12	18.2	8	11.3	11	17.2	52	17.6
わからない		い	男	5	14.7	10	18.5	8	14.3	10	15.9	12	20.3	45	16.9	
			女	11	23.9	12	25.0	16	24.2	24	33.8	21	32.8	84	28.5	
無記不明	不明	男	2	5.9	1	1.9	3	5.4	5	7.9	12	20.3	23	8.6		
		女	4	8.7	0	0	2	3.0	12	16.9	6	9.4	24	8.1		
○10年後には人々がふえると思いますか	全	は	い	男	24	70.6	40	74.1	43	76.8	43	68.3	38	64.4	188	70.7
				女	38	82.6	35	72.9	43	65.2	41	57.7	34	53.1	191	64.7
		い	い	男	4	11.8	4	7.4	5	8.9	9	14.3	3	5.1	25	9.4
				女	2	4.3	4	8.3	2	3.0	4	5.6	1	1.6	13	4.4
		わからない	い	男	4	11.8	9	16.7	5	8.9	5	7.9	5	8.5	28	10.5
				女	3	6.5	9	18.8	15	22.7	13	18.3	15	23.4	55	18.6
	無記不明	不明	男	2	5.9	1	1.9	3	5.4	6	9.5	13	22.0	25	9.4	
			女	3	6.5	0	0	6	9.1	13	18.3	14	21.9	36	12.2	
	会津坂下町	は	い	男	21	61.8	40	74.1	42	75.0	43	68.3	42	71.2	188	70.7
				女	35	76.1	33	68.8	49	74.2	39	54.9	41	64.1	197	66.8
		い	い	男	7	20.6	7	13.0	6	10.7	9	14.3	3	5.1	32	12.0
				女	2	4.3	7	14.6	5	7.6	5	7.0	2	3.1	21	7.1
わからない		い	男	4	11.8	7	13.0	6	10.7	7	11.1	5	8.5	29	10.9	
			女	6	13.0	8	16.7	11	16.7	16	22.5	13	20.3	54	18.3	
無記不明	不明	男	2	5.9	0	0	2	3.6	4	6.3	9	15.3	17	6.4		
		女	3	6.5	0	0	1	1.5	11	15.5	8	12.5	23	7.8		

表IV-21 年齢層別、スポーツの将来性②

項目	性別	回答	男女	年齢層 人%	18~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~74歳		計	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
○10年後には位置を占めてくるようになると思いますか	全	は	い	男	23	67.6	29	53.7	37	66.1	35	55.6	23	39.0	147	55.3
				女	33	71.7	20	41.7	39	59.1	26	36.6	17	26.6	135	45.8
		い	い	男	5	14.7	11	20.4	6	10.7	13	20.6	9	15.3	44	16.5
				女	3	6.5	6	12.5	6	9.1	6	8.5	6	9.4	27	9.2
		わからない	い	男	4	11.8	13	24.1	10	17.9	9	14.3	12	20.3	48	18.0
				女	8	17.4	20	41.7	16	24.2	24	33.8	27	42.2	95	32.2
	無記不明	不明	男	2	5.9	1	1.9	3	5.4	6	9.5	15	25.4	27	10.2	
			女	2	4.3	2	4.2	5	7.6	15	21.1	14	21.9	38	12.9	
	会津坂下町	は	い	男	19	55.9	27	50.0	37	66.1	34	54.0	27	45.8	144	54.1
				女	29	63.0	19	39.6	42	63.6	27	38.0	19	29.7	136	46.1
		い	い	男	8	23.5	13	24.1	6	10.7	14	22.2	10	16.9	51	19.2
				女	8	17.4	8	16.7	6	9.1	8	11.3	7	10.9	37	12.5
わからない		い	男	5	14.7	13	24.1	10	17.9	11	17.5	13	22.0	52	19.5	
			女	6	13.0	19	39.6	17	25.8	26	36.6	32	50.0	100	33.9	
無記不明	不明	男	2	5.9	1	1.9	3	5.4	4	6.3	9	15.3	19	7.1		
		女	3	6.5	2	4.2	1	1.5	10	14.1	6	9.4	22	7.5		
○10年後には縮小化・減少化の傾向になると思いますか	全	は	い	男	14	41.2	15	27.8	20	35.7	6	9.5	10	16.9	65	24.4
				女	12	26.1	12	25.0	13	19.7	10	14.1	4	6.3	51	17.3
		い	い	男	11	32.4	27	50.0	23	41.1	37	58.7	24	40.7	122	45.9
				女	22	47.8	16	33.3	27	40.9	26	36.6	21	32.8	112	38.0
		わからない	い	男	7	20.6	12	22.2	11	19.6	15	23.8	11	18.6	56	21.1
				女	10	21.7	20	41.7	20	30.3	20	28.2	25	39.1	95	32.2
	無記不明	不明	男	2	5.9	0	0	2	3.6	5	7.9	14	23.7	23	8.6	
			女	2	4.3	0	0	6	9.1	15	21.1	14	21.9	37	12.5	
	会津坂下町	は	い	男	12	35.3	16	29.6	14	25.0	6	9.5	10	16.9	58	21.8
				女	3	6.5	10	20.8	15	22.7	13	18.3	7	10.9	48	16.3
		い	い	男	15	44.1	28	51.9	31	55.4	37	58.7	26	44.1	137	51.5
				女	27	58.7	21	43.8	29	43.9	28	39.4	23	35.9	128	43.4
わからない		い	男	5	14.7	9	16.7	9	16.1	16	25.4	13	22.0	52	19.5	
			女	12	26.1	17	35.4	21	31.8	18	25.4	26	40.6	94	31.9	
無記不明	不明	男	2	5.9	1	1.9	2	3.6	4	6.3	10	16.9	19	7.1		
		女	4	8.7	0	0	1	1.5	12	16.9	8	12.5	25	8.5		

る企業は47.6%にも達し、10年前の昭和45年の4.4%に比較すると10倍もの伸び率である。²⁷⁾このように飛躍的な伸びを示す週休2日制と同時に国民の余暇時間も急激に増加し、また人びとの生活意識についても、仕事中心から仕事とレジャーの両立、さらにレジャー中心の生活意識へと移行していくことが予測される。

このようなレジャー社会にあつてスポーツは我々の生活の中で重要な位置を占めてくるものと考えられる。そこで、会津坂下町居住者はスポーツの将来性についてどのような意識を抱いているのか、全国的な立場と会津坂下町の立場において探ってみたい。

表IV-20と表IV-21はスポーツの将来性についての回答であるが、考察にあたっては「余暇時間」と「スポーツ人口」を、「生活におけるスポーツの重要性」と「スポーツを行う場」をセットにして進めていくことにする。

まず「10年後には人々の余暇は益々ふえると思いますか」という余暇問題に対して、全国レベルでは男子59.4%、女子47.1%、会津坂下町レベルでは男子53.0%、女子45.8%が「ふえる」と考えており、²⁸⁾全国レベルに比べ会津坂下町における余暇時間の増加は伸び悩みにあるといえる。

余暇時間の増大とともに、スポーツ人口の増加も考えられるわけであるが、「10年後には、現在以上にスポーツを行う人がふえると思いますか」というスポーツ人口の問題に対して、全国レベルでは男子70.7%、女子64.7%、会津坂下町レベルでは男子70.7%、女子66.8%が「ふえる」と考えており、²⁹⁾あまり差はみられない。

これらを年齢層別にみても大きな相違はみられず、余暇時間の増大に関して全国レベルでは30代の男女、会津坂下町レベルでは40代の男女において意識が高く、スポーツ人口の増加に関して、全国レベル、会津坂下町ともに40代の男子と20代の女子にその意識の高さがみられる。しかし、60歳以上になると「わからない」、「無記不明」者が増加し、スポーツに対する無関心層をのぞかせている。

以上から、会津坂下町居住者の余暇時間とスポーツ人口の問題に関しては、年齢層間において意識の若干の高低は見受けられるが、全国レベルと会津坂下町レベルにおいては大差はみられず、ともに増加の現象を示すという意識を抱いているこ

とが伺える。

次に、「10年後には、スポーツは生活の中で重要な位置を占めてくるようになりますか」というスポーツの重要性の問題に対して、全国レベルでは男子55.3%、女子45.8%、会津坂下町レベルでは男子54.1%、女子46.1%が「重要となる」と考えている。³⁰⁾また、スポーツの重要性は高まっても現実にスポーツを行う場所が制限される場合も考えられるわけであるが、「10年後には、土地問題などでスポーツを行う場所は縮小化、減少化の傾向になると思いますか」というスポーツを行う場の問題に対して、全国レベルでは男子45.9%、女子38.0%、会津坂下町レベルでは男子51.5%、女子43.4%が否定的な立場である。³¹⁾

先の、余暇時間やスポーツ人口の問題に比較して切実な問題として取り上げられるためか、「わからない」の回答も高い割合を示し（特に女子においては顕著である）、全体的に低いパーセンテージとして現われてきている。しかし、スポーツの将来性に関する四項目のうち、スポーツを行う場の問題に関して、会津坂下町は全国レベルを上回り、全国的な土地問題の中にあつて、会津坂下町では幾分土地にはゆとりがあるものと考えられる。

これらを年齢層別にみると、生活におけるスポーツの重要性に関して、全国レベルでは若年層において、また会津坂下町レベルでは中年層において重要性を強く意識している。スポーツを行う場所に関しては、全国レベル、会津坂下町レベルとも50代の男子、20代の女子において縮小化、減少化に対して否定的な立場をとる者が目立つが、全国レベルにおける20代の男子は逆に肯定的な立場をとり、日本の土地問題の深刻な事情を懸念しているのが伺える。

以上から、会津坂下町居住者の生活におけるスポーツの重要性とスポーツを行う場の問題に関して、スポーツを行う場に関しては全国レベルよりゆとりを示しており、またスポーツの重要性に関しては全国レベル同様肯定的な立場にあるといえる。しかし、他の項目（余暇時間、スポーツ人口）に比べ「わからない」の回答率が増加し、状況判断の困難さ及び問題の深刻さを漂わせていることが伺える。

3. ま と め

会津坂下町居住者のスポーツ意識について男女別、年齢層別、スポーツクラブへの所属の有無、及び1週間のスポーツ活動時間別からのクロス集計とそれに対するカイ自乗検定から考察を加えてきたが、これらをまとめると以下のようなになる。

① 1週間のスポーツ活動時間からみた会津坂下町居住者とスポーツの関わり

- a. 会津坂下町居住者のうち、労働条件等より第一次産業従事者にスポーツ活動時間の少なさが目立つ。
- b. 会津坂下町居住者の半数以上が過去においてスポーツクラブへの所属経験を有しながら、現在の1週間のスポーツ活動時間は、所属経験の無い者で「全くしていない」、「1～30分」は65～70%、所属経験者では45～50%にも達し、過去におけるスポーツ活動の経験が現在に継続されていない。
- c. 1週間のスポーツ活動時間の少ない者ほどスポーツをする習慣の足りなさを自覚している。
- d. 会津坂下町居住者のふだんのスポーツ活動の方法は、男子は行事志向型に家庭での軽スポーツが加わったもので、女子は子供の相手をするというファミリースポーツ志向型であるといえる。
- e. スポーツクラブへ所属してスポーツ活動を行うということに対しては、時間的余裕、及び練習時間帯との調整の問題がかなりのウェイトを占め、大きな阻害の原因となっている。
- f. 会津坂下町居住者の希望するスポーツ活動は、自分の好きな種目で好きな時にできるものであることより、行政からのエリア・サービスとプログラム・サービスがうまく噛み合ったスポーツの提供が考えられる。

② 会津坂下町居住者のスポーツ意識

- a. 会津坂下町居住者のスポーツ活動は行事志向型であるが、その中心となる年代は男女とも30代、40代であり、これに20代の男女に今後積極的に参加していきたいという意志が加わる。逆に、高年層になるに従って積極性は失われていく傾向にある。
- b. 会津坂下町におけるスポーツ集団の構成は、まず男女別に構成を考慮する必要があるが、年齢層別による構成、つまり若年層においては「地

域を中心とし、異性混合で年齢及び技術程度の様々な集団」を、また中年層、高年層では「地域を中心とし、同性同志で年齢及び技術程度もほぼ同じ集団」を考慮すべきである。

- c. 会津坂下町居住者のほとんどの者が、現在のスポーツ施設に対して不十分であると訴えている。また、居住者の希望するスポーツ施設は、全体的に「開放的で手続きなどいらず、金のかからないセルフサービスの施設」であるが、若年層の男女及び中年層の男子は「少し遠いが本格的な施設」がこれに加わり、30代、40代の女子及び高年層の男女には「住居の近くにあるが簡素な施設」が加わる。
- d. 会津坂下町居住者の約80%がスポーツ指導者の必要性を感じている。スポーツ指導者のタイプに対しては男女間及び年齢層間に相違がみられ、男子は「安全をモットーとし、礼儀正しく経験をつんだ老練な指導者」を希望し、その傾向は30代、40代、50代の男子において顕著である。また女子は「安全をモットーとし、ざっくばらんで元気のよい若い指導者」を希望し、その傾向は若年層の男女及び30代、40代の女子において顕著である。また、若年層の男子で「進歩をモットーとした指導者」を希望する者が半数近くいることも無視できないものである。
- e. スポーツの将来性に関して、全国レベルと会津坂下町レベルの年齢層別比較で、大きな差がみられたのは「10年後には、スポーツを行う場所は縮小化、減少化の傾向になる」においてであり、他の項目は同様な傾向を示している。また、項目間において余暇時間、スポーツ人口の問題に関しては増加の傾向にあるという回答が多いのに対して、生活におけるスポーツの重要性、スポーツを行う場の問題になると「わからない」という回答が増え、現実的な問題への直面ということで判断に躊躇がみられる。

以上、その1、その2において会津坂下町のスポーツ活動及びスポーツ意識について様々な角度から考察を加えてきたが、次号においては、これらを踏まえて会津坂下町における具体的なコミュニティスポーツ政策を展開したいと考える。

(未完)

注及び引用文献

- 1) 福島大学教育学部論集 37号 1985年2月 p.

- 23 参照
- 2) 「蓬萊町居住者の1週間のスポーツ活動時間」については福島大学教育学部論集34号 1982年2月 p.74を参照, 「会津坂下町居住者の1週間のスポーツ活動時間」については福島大学教育学部論集37号 1985年2月, p.29を参照。
 - 3) 自然を対象とする第一次産業にあつては必ずしも個人の裁量によって時間を調整できるとは言いきれないが, 年間を通して農繁期, 農閑期というサイクルに合わせたスポーツ活動計画の立案も考えられる。
 - 4) スポーツ階層とは, 個人がスポーツと関わる際に生ずる集団や社会の中で個人を格づけしたものであり, そこには7階層のスポーツ階層が考えられる。それらは, スポーツ無関心層, スペクテータスポーツ層, 行事スポーツ層, 保健的運動層, レジャースポーツ層, クラブスポーツ層, チャンピオンスポーツ層であり, その中でスポーツ無関心層とは意識及び活動面において全く関心を示さない者を指すものである。
 - 5) 蓬萊町居住者のスポーツクラブへの所属者は男子29.4%, 女子14.1%である。(以降蓬萊町に対する資料は1982年6月に実施した蓬萊町居住者のスポーツ実態調査によるものである)。
 - 6) 「広い意味で, クラブとは, 共通の目的や趣味をもつ人びとを会員として組織された団体」で, 「一般的には, 目標に対する共通理解, 社会的な結束, 社交性への欲求が成員間に存在している自治的な組織」で, 「加入・脱退の条件や権利義務の関係など集団内統制がもっとも自由で, 解放的であると同時に, 集団意識も希薄な団体」であるとする。(竹之下休蔵, 菅原禮編「体育社会学」大修館書店 1979. p.155)
 - 7) 行政側からのいわゆる活動の場の提供と, スポーツ教室や月例会のようなプログラムの提供を意味するものである。
 - 8) 蓬萊町居住者の1年間のスポーツ行事への参加率は男子33.9%, 女子27.1%である。
 - 9) 蓬萊町居住者においては男子58.3%, 女子47.9%が積極的に参加したい意識を持っている。
 - 10) 前掲書, 1) 「福島大学教育学部論集」 p.29
 - 11) 蓬萊町居住者においては男子62.2%, 女子66.7%がスポーツ教室の開講を希望している。
 - 12) 菅原 禮編著, 「体育社会学入門」大修館書店 1979年 p.101~102
 - 13) 竹之下休蔵, 菅原 禮編著「体育社会学」大修館書店 1979年 p.88
 - 14) スポーツ集団, スポーツ施設, スポーツ指導者に対する質問形式は, 相対立する項目から二者択一方式であるため, 選択に戸惑い無回答者の割合が多く, 特に高年層にその傾向が強く出ていることを予め記述しておく。また, この傾向は蓬萊町居住者に実施した調査結果にも同様に現われている。
 - 15) 蓬萊町居住者においては男女とも「異性混合の集団」(男子46.7%, 女子41.1%)を希望している。
 - 16) 蓬萊町居住者において男子は「年齢の様々な集団」(61.1%)を, 女子は「ほぼ同年齢層の集団」(44.3%)を希望している。
 - 17) 蓬萊町居住者において男子は「技術程度の様々な集団」(46.1%)を, 女子は「技術程度のほぼ同じ集団」(47.9%)を希望している。
 - 18) 蓬萊町居住者においては男女とも「地域を中心とした集団」(男子59.4%, 女子67.7%)を希望している。
 - 19) 蓬萊町居住者においては男子76.7%, 女子76.0%が「不十分」と意識している。
 - 20) 現在, 会津坂下町総合体育施設の設置運動を推進中であるが, 予算, 具体的な日程の実現はまだ先の状態である。
 - 21) 蓬萊町居住者においては男女とも「住居の近くにあるが簡素なスポーツ施設」(男子66.1%, 女子72.9%)を希望している。
 - 22) 蓬萊町居住者においては男女とも「金がかからないがセルフサービスのスポーツ施設」(男子80.0%, 女子82.8%)を希望している。
 - 23) 蓬萊町居住者においては男女とも「開放的で手続きなどのいらぬスポーツ施設」(男子84.4%, 女子87.0%)を希望している。
 - 24) 蓬萊町居住者においては男女とも「ざっくばらんな指導者」(男子51.7%, 女子52.6%)を希望している。
 - 25) 蓬萊町居住者においては男女とも「安全をモットーとした指導者」(男子61.1%, 女子67.2%)を希望している。
 - 26) 蓬萊町居住者においては男女とも「経験をつんだ老練な指導者」(男子57.8%, 女子46.4%)を希望している。
 - 27) 余暇開発センター編, 「余暇ハンドブック」1982

年版 p.216

- 28) 蓬萊町居住者においては男子76.1%、女子81.8%が「ふえる」と考えている。
- 29) 蓬萊町居住者においては男子81.1%、女子85.9%が「ふえる」と考えている。
- 30) 蓬萊町居住者においては男子77.2%、女子76.0%が「ハイ」と答えている。
- 31) 蓬萊町居住者においては男子50.6%、女子51.6%が「ハイ」と答えているが小差で「イエ」を上回っている状態である。

A Study of the Policy of Community Sports in Aizu-Bangemachi (II)

Shūichi ARAYA

The present paper defines the purpose of this study, referring to the general condition of Aizu-Bangemachi and furnishing the research data on a consciousness of the inhabitants concerning the facility, instructor, group and perspective of sports.